

手足口病・ヘルパンギーナ・無菌性髄膜炎

手足口病、ヘルパンギーナは主としてエンテロウイルス(EV)により引き起こされる疾患です。また、無菌性髄膜炎は多種多様な病原体が原因となりますが、そのほとんどはウイルス性と考えられ、特にEVが70～80%程度を占めています。

2013年1月から2015年9月までに、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで実施した3疾患の検査から検出されたウイルスの症例数を下表に示しました。

手足口病からのコクサッキーウイルスA群(CA)の検出状況をみると、2013年はCA6、2014年はCA16、2015年はCA6とCA16が多く、また、2015年に埼玉県では初めてCA14が検出されました。中枢神経合併症の発生頻度が高いとされるEV71は、2014年以降検出されていません。

ヘルパンギーナでは、2014年はCA4が多く検出され、これは全国的にも同様の結果でした。2013年、2015年は検体数が少なく、流行ウイルスを捉えることはできませんでした。

無菌性髄膜炎では、コクサッキーウイルスB群(CB)とエコーウイルス(E)が多く検出されました。CBについては下表のとおりで、Eについては、2013年はE6(2例)、2014年はE11(5例)、2015年はE18(4例)が比較的多く検出されました。その他に、単純ヘルペスウイルス2型、水痘帯状疱疹ウイルス、サイトメガロウイルス、ヒトヘルペスウイルス(HHV)6、HHV7、ムンプスウイルス、ライノウイルス、アデノウイルス、パラインフルエンザウイルス、ロタウイルスA群等様々なウイルスが検出されました。

2013年1月～2015年9月までの臨床診断名別検出ウイルス症例数(重複検出含む)

臨床診断名	年	症例数	検出ウイルス																
			CA						CB					E	EV71	パレコ	その他		
			2	4	5	6	9	10	14	16	1	2	3					4	5
手足口病	2013	37				23											10		2
	2014	26				2		1			13							3	7
	2015	28				9			1	9								3	9
ヘルパンギーナ	2013	7				3											2		
	2014	18		7	1	1		3										1	1
	2015	9	1			3	1	2											1
無菌性髄膜炎	2013	49				1						2	5	1	4	4	5		11
	2014	42						1					2		3	6		2	17
	2015	21					2			1		1	1		1	6			10

* 県内での流行状況を知るためにも、病原体定点医療機関の先生方の積極的な検体採取をお願いいたします。